

# Sakura Citizen Collaboration Team News No.8



第10回市民協働チームミーティングを3月24日に実施しました。今回は前半にお仕事紹介、後半で各分科会の中間発表を行いました。

——市民協働チーム——

## アイスブレイク



総合政策課渡邊さんのアイスブレイクで声を出さずにジェスチャーのみでコミュニケーションを図り、順番に並ぶ「バースデーライン」を行いました。最後に挑戦した千支順は少し難しいかと思われましたが、それぞれ自分の千支の特徴を良く捉えたジェスチャーをして、見事に成功しま

## 「自分の仕事を知ってもらおう」



今回の「自分の仕事を知ってもらおう!」は、高齢課の大橋さんです。

さくら市の高齢化率は26%となっており、今後ますます介護が必要な人が増えていくそうです。そんな中で、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるために必要な「地域包括ケアシステム」などについて説明をしてもらいました。

高齢者だけでなくすべての人が生きやすい「地域共生社会」を実現するためには、行政全体で連携する必要があります。

## 心がけの復唱



今回の司会・ファシリテーターは、市民課小松さんと総務課宗形さんです。

## グループワーク

具体的な例を基に、どうしたら一人暮らしの高齢者の「自立生活」と「尊厳の保持」が実現できるかを話し合いました。

地域との繋がりが希薄で、娘は遠くに嫁いでしまい、夫には先立たれて、自分の身の回りのこともできなくなってきて、生活に張り合いが無く、気力もない・・・

これは珍しいことではなく、他人事ではないと感じました。

行政サービスなどを充実させることももちろんですが、自分自身も元気な内から、地域との繋がりを持ったり、身近で頼りあえる仲間を作っておくこと、生き甲斐となるようなことを見つけておくことが必要なのではないかと思いました。

## グループ中間発表



今回は、グループごとに中間発表を行いました。

分科会は全部で5グループとなり「遊休農地の再開発」「子どもの居場所づくり」「地域の資源を活用したまちづくり」「子育て地域資源情報発信」「瀧澤家の利活用」をテーマにそれぞれ動き出しています。

資金面をどうするか、継続性はあるのかなど、まだまだ課題はありますが、少しずつ前進している様子です。また、方向性はそれぞれ違いますが、さくら市をもっとよいまちにしたいという想いはみんな一緒です。

分科会での活動は8月のミーティングで再度中間発表、12月には最終発表となるので、それに向けて活動していきます。

### 地域の資源を活用したまちづくり

越智、大橋、野澤、千葉

#### ○商店街の空き家活用

今は寂しくなってしまう商店街に賑わいを取り戻したい。商店街で貸してくれる空き家を見つけた。高齢者の居場所づくりをする。

#### ○郊外の空き家活用

穂積地区の空き家をこれからあたっていく。

#### ○ベンチプロジェクト

ベンチがあることで、そこに人が集まり商店街の活性化につながる。エコパークしおやから、使えるベンチをもらって活用する。

### 瀧澤家住宅の利活用

小松、小堀、風見、金田（侑）、佐藤、赤塚

瀧澤家住宅は去年リニューアルしたが、あまり使われてなくもったいない！秋ごろにイベントを実施し、市民にもっと瀧澤家住宅を知ってもらおう。瀧澤家住宅の利用の幅を広げ、恒常的に人がくる流れを作る。

イベントは、さくら市ミュージアムに協力してもらいながら、古本市や、絵本の読み聞かせ、着物を着てスナップ写真撮影などを検討している。

### 子育て地域資源情報発信

森、田代、渡邊、薄井

子育て世帯をターゲットに、子育てで優しいお店や施設の情報を発信する。子育て世帯が市内で活動しやすくなり、暮らしもより豊かになる。

また、市内にあるお店、施設の利用者が増えることで地域活性化を図る。マップの作成、各種媒体（HP、SNS、情報誌など）への情報掲載、将来的な赤ちゃんの駅の協力店舗の開拓を目指す。単発事業で終わらせず、継続できる事業の検討。

### 遊休農地を利用した再開発

南部、金田（昂）、石原、宗形

さくら市をきれいな町にしたい、遊休農地を減らしたい、異世代間交流を持ちたいという想いのもと、除草、清掃作業から始め、キャンプ場や花畑を作り、市内の清掃チームの設立を目指す。既に氏家地区の土地所有者にアプローチして、内諾を得ている。

市のイメージアップ、遊休農地所有者からの依頼増加、地域資源の開拓などの効果が期待される。

### 子どもの居場所を作ろう！

岡本

「関係性の貧困」にある子どもへの支援として、子ども食堂を開発する。場所は氏家小学校区を対象とし、「ハッピークローバー」で実施。「ハッピークローバー」も前向きに検討してくれている。子どもの居場所の重要性を市内で啓発し、更なる子どもの居場所の開発促進を図る。

資金調達が課題で、難しそうであれば、引きこもり対策にシフトする可能性あり。

next time

次回

5月28日（木）13時30分～

前半で「自分の仕事を知ってもらおう！」、後半で分科会のミーティングを行います。

【問】総合政策課市民活躍推進係